

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光 カラー砂を通して光を感じる

<テーマの設定理由>

・これまでの「光」をテーマにした活動から、「光」というものに関する興味関心が高まってきた。 ・様々な色のマグネットブロックを通した光の変化を楽しむ様子が見られたため、ライトテーブルを導入して様々な色の変化や様々な素材を用いて変化を楽しめるように活動に取り入れた。

2. 活動スケジュール

令和7年3月3日～3月7日
③カラー砂を通して光を感じる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・ライトテーブル 6台 ・カラー砂 ・カラー砂を入れる容器

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ライトテーブルとカラー砂を使用することで、普段身近に感じている砂と光の融合を味わう。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・砂は普段、園庭や砂場で遊ぶことがほとんどである。今回のように下から、光が当たったカラー砂は子どもにとっても保育者にとっても新鮮で、魅了されていた。保育者も子どもと一緒に繰り返し砂を集めたり、広げたり、跡をつけたりすることでその楽しさに共感しながら活動を進めていった。



- ・ライトテーブルの上に置いた砂に指で線を描くことを楽しむ。線を描くと底から光が差し込む様子に興味をもち、顔を近づけて観察する。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・砂場で砂を触る時とは違う感覚が味わえて、子どもたちも興味津々になる姿があった。目で見て、触って、色々な感覚を味わうことができた。
- ・カラー砂を使用する時は、安全面に配慮し、散らばってもすぐに片づけられるよう掃除用具をあらかじめ用意しておく。カラー砂に触れる際は、保育者がそばにつき、誤飲に気を付ける。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光 クリアブロックを通して光を感じよう（3・4・5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

・これまでの「光」をテーマにした活動から、「光」というものに関する興味関心が高まってきた。 ・普段からレゴブロックを熱心に行っている園児が多く、ライトテーブルを導入して普段とは違ったブロックの変化を楽しめるように活動に取り入れた。

2. 活動スケジュール

令和7年3月3日～3月7日 ④クリアブロックを通して光を感じる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)	
・ライトテーブル	6台
・クリアブロック	1ケース

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

じっくりと遊びこめるように、1つのライトテーブルで1～2名で活動を行い、数か所に分けてクリアブロックをライトテーブルの上に配置する。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・ブロック遊びが好きな男の子は、ライトテーブルの上に広がるブロックをみてすぐに興味をもち、作品を作り始める。下から光があたることで、遊びなれているブロックでも普段とは違った見え方がすることに気づく。

・ブロックを積み上げて東京タワーを作り、ライトテーブルの上に乗せる子がいる。「きらきら光ってる！」と満足そうな表情で光の遊びを楽しむ。「下のほうが光ってる」と高さによって光の具合が違うことも感じとっていた。



・電源ボタンがあることに気づき、じっと見つめている子がいたため、保育者はライトが付いたり消えたりする様子を子どもたちに見せる。光の点滅を感じ、「チカチカしてる！すごい！」と興味をもったのぞき込んでいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・普段遊び慣れたブロックでも、光にあてる事で見え方や感じ方が変わり、子どもたちが新たな発見をする姿が見られた。

・一種類だけでなく、様々な大きさや素材のブロックを用意することで、違いを感じることができ、さらなる発見に繋がると感じたので、子どもたちと話し合いながら色々な素材を用意していきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光 感覚を楽しみながら、探索と発見をする（0歳児クラス）

<テーマの設定理由>

・乳児クラスで、朝の日差しが差し込む時間帯に、マットの上でうつぶせになりながら、窓から差し込む光の筋にじっと見入っていた。保育者がプラスチックの玩具を光に当ててみせると、目でそれを追い、手を伸ばす姿があった。
--

2. 活動スケジュール

令和7年3月24日～3月27日 ライトテーブルの上で光を感じる素材の玩具で遊ぶ
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・ライトテーブル 1台
- ・クリアおはじき

夕方日が落ちてきてお部屋の電気を消すと薄暗くなる時間帯でライトテーブルを設置した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育者がライトテーブルを点灯し、まずはテーブルの上に何も置かずに、光の様子を観察する。少し慣れて慣れてきた頃に、ライトテーブルの上にクリアおはじきを置いて、玩具と光の融合を見て、触れて楽しむ。一人ひとりの子どもが自分のペースでじっくりと観察したり触れたりできるように、2人ずつ活動を行う。保育者がそばにつき、まずはじっくりと光と触れあえるようにそばで見守る。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)



・ライトテーブルを出すと、さっそく子どもたちが近づいてきて「これはなんだろう？」と興味を示す。

・ライトテーブルの上に手を乗せ、じーっと見つめたり、叩いたりして感覚を確かめる。時々近くにいる保育者の方を向いて、「見て！」と嬉しそうな表情をみせる。保育者が、「光っているね」「きれいだね」と声を掛けるとほほ笑みながらさらに光に手をのぼす。



・クリアおはじきをひとつずつ摘まんだり、置いたりを繰り返す。何度も繰り返し遊ぶ姿に、子どものわくわくが伝わってきた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・光を通じた素材に触れることで、「見る」と「触る」の感覚が連動するため乳児期の子どもにとって、とても刺激的な教材だと再確認した。

・ライトテーブルの上で素材を動かしたり、重ねたりすることで光の変化がおき、「どうなるかな?」「これはなに?」という探求心をくすぐることができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光 感覚を楽しみながら、探索と発見をする（1・2歳児クラス）

<テーマの設定理由>

・窓から差し込む光に、ブロックで作った作品を当て、保育者に「ほらみて！きらきら！」と声を掛けていて、ひかりに興味を持つ姿が見られた。 ・1、2歳児クラスでもマグネットブロックの自由遊びを導入し、幼児クラスと同様に様々な色のマグネットブロックを通した光の変化を楽しむ様子が見られたため、乳児用のライトテーブルを導入してより光を感じられるような活動を実施した。
--

2. 活動スケジュール

令和7年3月24日～3月27日 ライトテーブルの上で光を感じる素材の玩具で遊ぶ
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・ライトテーブル 1台 ・マグキング マグネット
夕方日が落ちてきてお部屋の電気を消すと薄暗くなる時間帯でライトテーブルを設置した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育者がライトテーブルを点灯し、まずはテーブルの上に何も置かずに、光の様子を観察する。少し慣れて慣れてきた頃に、ライトテーブルの上にマグビルドを置いて、玩具と光の融合を見て、触れて楽しむ。一人ひとりの子どもが自分のペースでじっくりと観察したり触れたりできるように、2～3人ずつ活動を行う。保育者がそばにつき、まずはじっくりと光と触れあえるようにそばで見守る。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)



・ライトテーブルを出すと、さっそく子どもたちが近づいてきて「これはなんだろう？」と興味を示す。電源を付けて光るだけでも皆わくわくして興奮している様子が見られた。

・ライトテーブルの上にマグビルドを置くと、様々な色にキラキラ光るマグビルドに興奮する様子が見られた。



・一つ一つマグビルドの色を変えながらじっくり眺め、重ねたらどんな色になるのか、形を作ったらどんな光り方になるのか楽しんでいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・普段使っているマグネットブロックでも、光を通して見たり触ったりすることで、普段とは違った感性が刺激される様子が見受けられた。

・ライトテーブルの上で素材を動かしたり、重ねたりすることで光や色の変化がおき、次はどうしてみよう、といった探求心も育つため、今後も同じ活動続ける事で新たな発見や次の活動への発展に繋がっていくと考えられる。